

ふるさとの 其の26 誇り



不動寺 古市場地区

不動明王が現れた場所を「古明王」、その川を「明王川」と呼びます。そこには空海が仏に供える清浄な水をくみ上げる池があったと伝えられています。



弘法大師像



真豊院と弘法の硯田 古市場地区

真豊院のすぐ南に面する水田は「弘法の硯田」と呼ばれ、土が黒色であることから、書家の大家としても名高い空海が毎日墨を洗った場所と伝えられています。



西光寺跡



八幡寺の「独鈷の井戸」

弘法大師空海伝説の 足跡をたずねて

全国各地に伝えられる弘法大師空海の伝説。空海が当時山梨県にきた記録はありませんが、とりわけ甲西地区にはその伝承が色濃く残されています。今月の広報では空海伝説の足跡をたずねてみます。

甲西地区大師。その名前も弘法大師に由来しています。古くは北大師と呼ばれるれていたと伝えられる古市場地区に真言宗の古寺真豊院がひっそりと建っています。真豊院の本尊馬頭観音は、延暦年間（782〜805）空海がこの地に立ち寄った際に香木を彫刻して安置した像と言われ、これが村名を北大師と呼ぶようになったきっかけと伝えられます。

真豊院から東へ5分ほど歩くと真言宗の古刹不動寺に着きます。寺記では、この地を訪れた空海が川の中から現れた不動明王の化身に導かれ不動明王像を彫り、その像を本尊として不動寺を開いたと言われます。

不動寺から南へ進むと、弘仁年間（810〜823）、空海が創建したと伝えられる清水の八幡寺に到着します。境内の西には「独鈷の井戸」と呼ばれる湧水を利用した井戸があり、空海が金剛杵で地面を打ったところ、水が湧き出し、そこから村の名が「清水」と名づけられたと伝えられます。

この他にも空海開創の伝承は江原の真言宗金剛寺にも残され、また鮎沢に

は平安時代同じ真言宗の古刹西光寺が位置し、一時は七堂伽藍を配したと伝えられています。

なぜこの地域に空海由来の真言宗寺院が多いのでしょうか。前記の寺院はすべて、現在若草地区加賀美にある真言宗法善寺の末寺となっています。空海が生きた時代、法善寺がどこにあったかははっきりとわかっていませんが、法善寺には空海から直接灌頂を受けた神徳という僧がおり、神徳が甲斐国における真言宗の普及に深く関与した人物であると考えられています。甲西地区に広がる空海伝説を解く鍵は、法善寺とのかわりにありそうです。

※灌頂 主に密教において頭の上に水を灌ぎ、正統な継承者となる儀式。また仏と縁を結ぶための儀式。